

## 湊周り道の繁盛

加賀国内の北国街道には、江戸時代より手取川を除くすべての川に橋が架けられていた。

しかし手取川だけは防衛上橋の架設は禁じられており、そのため藩は船渡しを許可した。

船渡しは時代により違いはあるものの、元禄期（一六八八〜一七〇三）で粟生に渡船二艘・水主八人、湊・本吉に渡船二艘・水主十二人が置かれた。

手取川は夏から秋にかけて水量の少ない時はさしたる難儀もかからない川であったが、春先の雪解け時や梅雨の時期など、水量が増えると容易に川越えは出来なかった。

手取川の増水により粟生渡船がさしつかえた場合、人々は石川郡水島より「湊周り往来」を利用して小松に行った。

この湊通り往来は福島村 下の江 高坂 の根上町域を通り、さらに大島 上牧 梯出村と抜け、小松に抜ける道路であった。

また、同じく渡船馬渡りが出来ない場合は、水島より湊船場まで付け届けられ以後、人足で福島を経て小松まで送られるなど、脇街道ではあったが、よく利用された重要な往来道であった。

また、根上町域の人々にとっても日常の生活道路として、湊村や本吉町、小松町などに赴き、諸商売や賃仕事に従事するときに利用した、とても大事な道であった。今彷彿として往時を偲ぶばかりである。

